LTR ビト

毎回 LTR メンバーの１人が登場し、士業として、働く人として、さまざまな想いを語るスペシャルコンテンツです。

目指すのは、経営者が元気になれる決算書

千代田経営会計事務所
税理士　宮本 泰三氏

1964 年に設立された「千代田経営会計事務所」。長い歴史の中、「経営者の皆さんを支え、元気にする。その思いはずっと引き継がれていますね」と話してくれた所長の宮本氏。事務所におけるサービスの要（かなめ）「社長の成績表」は、自社の決算の数字が世間から見て良いのか悪いのかについて、数字で明確に示したものです。今回はこちらに注目し、サービスの特長や強みなどについてお聞きしました。

50年以上変わらないお客さまへの思い

「千代田経営会計事務所」は、業界の中でも歴史が長いといわれています。創業者は、第二次大戦中に戦地へ赴き、終戦後わずか４ヶ月で当事務所を開きました。周辺には塗装業や木工業、金物屋などが多く、創業者はいわゆる“町のお医者さん”的な存在だったようです。私は３代目になりますが、お客さまも３代目の方が多く、昭和、平成、令和…と、変わりゆく時代の中を共に歩んできたように感じています。

その間、ずっと大事にしてきたことは、「お客さまをサポートし元気になってもらう」という考え方でした。私たち税理士が経営を支援することは、明るい未来へとつなぐこと。そのために欠かせないのが、決算書や経営計画書となります。

決算書は、ある意味“数字と文字の羅列”です。そのため、「目にした途端、見る気がなくなる」といった声もよく聞きます。しかし、経営者の皆さんには、決算書の数字を理解し会社の現状を把握してもらわなければなりません。そこで、「見たい」と思うような決算書を作ることが、私の目標となりました。

決算書を成績表にしてみよう

決算書について経営者の方に聞いてみると、「昨年との比較はできるが、世間的に見て良いか悪いかが分からない」という意見が多く出ました。そこで、税理士仲間とプロジェクトチームを立ち上げ、この点がクリアになる仕組み作りからスタート。その結果たどり着いたのは、決算書を客観的に分析して評価し、成績表のように見られる形です。お客さまには２期分の決算書をご用意いただくだけで、自動的に数字が算出できるようにしました。その名も「社長の成績表」です。

評価の指針については、銀行の内部評価に基づく手法を使用しました。そのため、「銀行からは、このように見られています」といった内容や、「融資が受けやすいように、こうしましょう」といったアドバイスができる点も強みとなっています。

「社長の成績表」は健康診断結果のようなもの

もちろん、成績表を渡してハイ終わり、ということではありません。そこから長期的なビジョンを考え「経営計画書」を作成します。人間にたとえるなら、健康診断の結果が「社長の成績表」、処方箋が「経営計画書」のイメージです。さらに、定期健診で健康状態を確認するように「月次決算書」を作成し、毎月チェックを行います。

実はサービスを立ち上げて数ヶ月は、お客さまにあまり定着しませんでした。理由は簡単。経営者として、私自身が決算書を使いこなせていなかったのです。そこで、実際に「社長の成績表」を作り、使うところからはじめました。すると自社の改善ポイントが明確に見えてきたのです。やがて、そこで感じたメリットを伝えることで、自然とサービスが浸透してゆくようになりました。

お客さまと一緒に「社長の成績表」「経営計画書」「月次決算書」のステップを踏み、いつもベストな“健康状態”でいてもらうことは、私の大きな力になっています。これからもお客さまを支え、元気になってもらえる会計事務所であり続けたいですね。（取材・文／小林 真由美）

宮本氏の事務所 HP はコチラから↑↑